

## 令和7年度第1回下野市生涯学習推進協議会議 議事録

審議会等名 令和7年度第1回下野市生涯学習推進協議会  
日 時 令和7年6月18日（水）午後1時30分から午後3時まで  
会 場 下野市役所3階 教育委員会室  
出席者 鈴木健一会長、楡木久美子副会長、石島直委員、小島恒夫委員、北村優子委員、鈴木秀男委員、松本文男委員、武子保委員  
【欠席】梅山博行委員、大古理恵子委員  
事務局 生涯学習文化課 猪瀬貴之課長補佐、芳賀鉄矢主査  
公開・非公開の別 (  公開  一部公開  非公開 )  
傍聴人 なし  
報道機関 なし  
議事録（概要）作成年月日 令和7年7月25日

### 協議事項等

1. 開会 〈学校長代表の高橋委員の後任として、石島委員が後任となる旨報告。〉

### 2. 会長あいさつ

（鈴木（健）会長）生涯学習推進協議会の役割は、ターゲットが非常に絞られており広く役割があるわけではないが、与えられた役割については適切に果たしていきたい。  
本日は各委員から忌憚のない意見・質問等をいただきたい。

### 3. 議事

（1）令和7年度下野市生涯学習推進協議会スケジュールについて

（鈴木（健）会長）事務局より説明を求める。

（事務局）資料に基づき説明。

（鈴木（健）会長）まず、本協議会の役割について確認する。本協議会は、市の生涯学習の施策について市民と行政との連携を深め、生涯学習による市の文化づくりを推進するために設置されており、市民と行政との連携を深めるのが本協議会の役割なので、そういった観点から各委員からの発言をお願いしたい。また、具体的な内容としては、生涯学習推進計画に関することと市民の学習支援に関することが役割となる。なお、計画については、決定することではなく関することなので、その計画に関する市民としての意見をいただきたい。

また、人口減少や少子化、デジタルトランスフォーメーション、グローバル化の進展など生涯学習の取り巻く社会情勢も大きく影響し、それを施策にどう盛り込むのかも非常に大きな課題なので、市民一人一人のウェルビーイングの実現に向けてそれぞれの関心のところから発言いただきたい。

スケジュールについてだが、生涯学習推進計画の素案について協議する2,3回目の会議が一番重要になると感じる。4回目の会議はパブリックコメントをやって、その結

果からどう修正するかどうかという話になる。5 回目はすでに計画が決定した後なので、次年度をどうするかを具体的に相談できればと思う。

(小島委員) 計画にある資格取得助成制度は非常にいいと思う。ただちょっと残念に思っているのは、市で IT パスポートの資格を職員に取らせようとしていたが、取得したのは 2% にもいかず、非常に少人数であるということ。IT パスポートについては市民にも受験制度みたいなものを設けるべきではないか。私も IT パスポートを勉強して去年取得した。70 歳過ぎてから勉強するということは新鮮で非常にいいものだから、この機会に生涯学習という意味で皆様にお伝えしたい。

## (2) 第三次生涯学習推進計画の点検について

(鈴木(健)会長) 第四次生涯学習推進計画の策定するにあたり、第三次生涯学習推進計画の 5 年間の成果と課題はどうだったのかを踏まえて議論していただきたい。また、それを踏まえての市民意識調査アンケートになるので、計画の点検とアンケートについてセットで協議いただきたい。では事務局より説明を求める。

(事務局) 資料に基づき説明。

(鈴木(健)会長) この 5 年間で総事業数は増えているが、生涯学習推進に対して目的が達成されたかという点必ずしもそうは言えない。生涯学習推進に対して効果があったという裏付けのエビデンスが必要と感じる。また、DX 化に関して小島委員から発言があったが、DX 化を第四次計画の中にうまく盛り込むのも大きな課題だと個人的に思う。

図書館は利用者数が増えて貸出冊数は横ばいとのことだが、図書館審議会の立場からどんなところに成果と課題があるか考えるか。

(鈴木(秀)委員) 利用者は増えているということだが、図書館にもっと来てほしい。図書館を利用する人というのは限られているように感じる。

(武子委員) 図書館の利用者でも本を借りに来ている人は少ない。

(鈴木(健)会長) 自分も図書館によく行くが、確かに読書ではなくリラックスをする場となっている。

(武子委員) 読書以外の目的で図書館に来ている人も多いようだが、図書館の本来の目的である読書を目的として来てもらうよう少しずつ変えていかないといけないのではないか。デジタルで本を読むのもいいが、本来の本の持っている役目を見直すことをしなければいけないのではないか。

(事務局) いずれにしろ、入館者が増えていることは、いろいろな企画が人を呼び込んでいると考える。

(鈴木(秀)委員) いろいろな企画がありそれはそれでいいが、やはり参加者は限られており参加者数はまだ少ない。参加する人は参加するが、そうでない人が多い。そういった人が図書館に行くという形にしていけないといけない。

(小島委員) 学校では小学生がものすごく本をよく読んでいる。ただ、高齢者と現役世代が読まない。コンピューターでなんでも情報が入ってくる時代だから。だから、例えば YouTube について図書館の中で語り合うとか。単に図書館は本を読めという時代ではない。

(鈴木(健)会長) 図書館の役割も変わってきており、その 1 つは小島委員の言っているデジタル化にどう対応するかである。Wi-Fi が各図書館に設置されたのだから、Wi-Fi を使って図書館が活性化すれば、Wi-Fi を設置した意味もある。

では次に、公民館についての5年間の成果と課題はどうだろうか。

(北村委員) 様々な講座が増えており、来館者も増えている。また、特に昨年度は講座に参加した方たちから自主サークルに移行した人が増えている。そのため、第三次計画の目的や理念は一定数達成したのではないかと考えている。また、課題として残ったのがボランティアコーディネータの養成だが、講座を開いても参加者が集まらずになかなか進まない。あと課題のもう1つが公民館の利用者の世代が偏っていること。30～50代の人は仕事もあり、講座への参加などハードルが高く難しいことが課題として挙げられる。

(鈴木(健)会長) ありがとうございます。最後に生涯学習と学校教育の関係、それから地域の人の学校に対する期待や協力についてご意見いただきたい。

(石島委員) 今まで地域の中にある学校という形であったものを、学校を核とした地域づくりというところを考えていかなければならないと言われている。今までだと学校運営協議会がありそこに地域の方々が入っていた部分があったが、その地域にあるものをより活かしていけないかという部分で、学校と地域、それから団体をつなぐということが少しずつ始まっている。今でも学校によってはすごく地域と連携できている学校もあるが、中学校になると少し地域の参入が少なくなっている感もある。そういう部分を洗い出すなど今年から動き始まったところである。そういう意味では学校教育、生涯学習教育を2つの両輪として進めていこうと動いている状況である。

(鈴木(健)会長) ありがとうございます。楡木委員から意見願う。

(楡木委員) 男女共同参画の事業だと、いつも限られている集いとか講演会などをやっている。聞いていると公民館や図書館で様々な事業をしていたとのことだが、その中でも男女共同参画の講座のようなものやってもらえるといいかなと。デートDVなどもあるので、中学生ぐらいの若い方も対象とした講座などをやってもらえればと。

### (3) 市民意識調査アンケートについて

(鈴木(健)会長) この市民意識調査アンケートで一番聞きたいところは何だろうか。第四次計画に活かすためのニーズ調査なのか、それとも第三次計画の評価調査に使うのか。

(事務局) 前回から比較という部分も入っているし、今後どんな生涯学習を求めているのかというニーズ調査も入っている。公民館や図書館の内容も含まれているトータルの調査である。

(鈴木(健)会長) わかりました。このアンケートについての意見があれば、メール等で事務局まで報告いただきたい。

## 4. その他

(事務局) 資料に基づき令和7年度生涯学習文化課事業概要を紹介。

## 5. 閉会